



本日の
プログラム

新会員卓話 井元 誉明 会員

70年に一度の学校大変革期～GIGA×ほっかいどう学の挑戦～

NPO法人ほっかいどう学推進フォーラム 理事長 新保元康氏

認定NPO法人ほっかいどう学推進フォーラムは、『北海道の子どもたちにもっと北海道を』を合言葉に活動を続けております。それは、世界に通じるICT活用能力を育て、それを我らの北海道の未来に活かす教育の実現でもあります。

私どもの挑戦についてお話させていただく機会をいただき大変光栄に存じます。

日本の教育は、およそ70年に一度の大変革期にあります。

- ①明治5年(1872年)、学生発布による義務教育のスタート
- ②昭和22年(1947年)、敗戦後の教育の民主化、6-3-3-4制のスタート
- ③令和元年(2019年)、GIGAスクール構想スタート

この三つが日本の教育の大転換点です。(明治5年～昭和22年＝75年間・昭和22年～令和元年＝72年間)

“GIGAスクール構想”とは、小学1年生から中学3年生まで約1,000万人に一人一台のPCを貸与し、授業をデジタル(PC)中心のものに変えていくという、非常に野心的な取り組みです。新型コロナウイルスへの対応が必要となったことから、巨額の補正予算が整備され、当初の予定を大幅に前倒しして令和3年4月から全国の学校でパソコンの一人一台環境が整い、授業での活用が始まっています。

日本の教育は、『チョーク&トーク』加えて『紙と鉛筆』によって、世界でもトップクラスの学力を育ててきました。しかし、ICTを活用して学ぶ能力は大いに不安視されており、授業改革が急がれているのです。

世界的に見て、日本の子どもたちはデジタルを学習ではなく遊びにより多く使っているといったデータもあり、世界が急速なデジタル化の渦中にある状況で、日本の存在感はどんどん薄れています。

GIGAスクール構想は、ここにくさびを打ち、グローバル社会のなかで生き抜く知恵と能力の育成を目指すものです。

実際にDX化が非常に進んでいるGIGAスクールの一例として、札幌市立稲穂小学校のケースでは、積極的に『オンライン授業』や『オンライン朝の会』などに取り組む

ことで、子どもたちは早くからパソコンを通じてデジタルの環境に慣れることができ、先生たちの働き方改革にもつながっています。

日本の先生は諸外国の先生と比較して非常に多忙を極めています。その理由は、諸外国の先生は『知育』のみを担当するのに対して、日本の先生が担当するのは『知育』・『徳育』・『体育』と非常に幅が広いという点が挙げられます。その結果、長時間労働を理由に優秀な人材も集まらなくなり、人材不足と高齢化が進んでいるのです。

一方で、日本の賃金水準の低下も人材不足にさらなる拍車をかけており、現在では韓国以下の水準となってしまっております。正に日本のピンチであり、稼げる日本のための人材育成、そのためには学力の向上が必須となっております。

このような背景から、学校DXが求められているのです。

私どもは、この学校DXを地方創生につなげるという挑戦をしています。

- ①人口の減少が全国で一番進んでしまっている北海道
- ②大人も子供も北海道のことを知らない

といった現状を変え、『北海道の子どもたちに北海道の主役になってほしい』という思いから、北海道のことを学んでほしいと考えています。第8期北海道総合開発計画にも明記された“北海道学”

です。

学校と社会をつなぐ『認定NPO法人ほっかいどう学推進フォーラム』は現在、全道130名の先生たちと授業・教材作成なども行っており、会員数は291名となっております。皆様の応援をお待ちしております。本日はご清聴いただきありがとうございました。

